

特242
678



0033843-000

特242-678

社会生活の形態と精神

中島徳蔵・述

新更会刊行部

昭和7

AGB

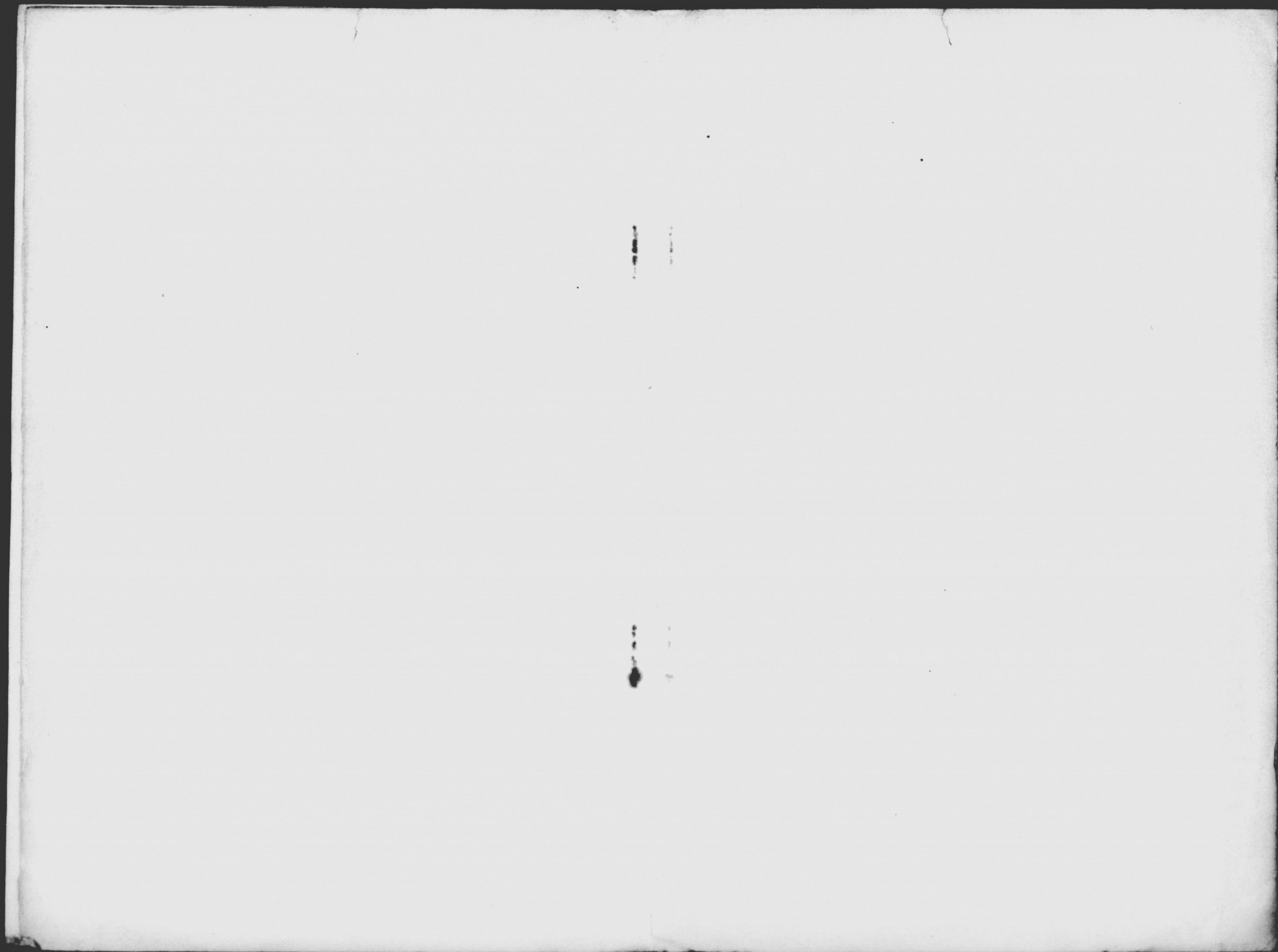
342
358

678

神精と態形の活生會社

長學大洋東前
述藏徳島中

究研の本日代現



特242
678



社會生活の形態と精神

前東洋大學長 中島德藏



社會生活の形態と精神

前東洋大學長 中 島 徳 藏

本論に入ります前に一寸私のことに付て申上げて置きたいと思ひます。唯今御紹介を受けました通り私は東洋大學前學長でございました。去る六月末日を以て満期で高楠博士が後任になりました譯でございます。私が學長となつて居ります間に、東洋大學は昇格致しまして、先づ押しも押されもない大學令に依る大學となることが出来ました。それは私が致したかのやうに聞えますが、併し是は單なる名でございます。其實は教授校友等全く後援者の力に依りました次第で、校友の中で第一に擧げなければなりませんのは、當山貫主でございます。校友と申ししても、多くは中等の教師とか、或は寺院の人々で、金は割合少い人々でございますが、其中にありまして當山貫主は多大の御後援を下さいます。此昇格も事實其のお蔭によつて出来た次第でございます。昇格した大學の學長と致しましての私の名譽も少なからぬことでございますが、其名譽なるものも貫主親下の餘光とも申されませう。高うはございますが、謹んで茲に御禮を申上げて置きます。

是より單なる一老學究として御話を申上げます。それは茲に掲げられたやうな題目でございますが、此題目は日本人が目下心血を注いで研究しつゝある大問題だと考へる譯でございます。社會生活の形式と申しますと、

吾々がどんな形に世の中と云ふものを拵へて、さう云ふ世の中に生活したが宜いのであるかといふことであります。今の社會生活の形式は何んであるかと申しますと、謂ふ迄もなく資本主義の社會生活形式であります。此資本主義の社會形式を打破して、社會主義の社會生活にしよう。共產主義の社會生活にしようと云ふのが所謂主義者の狙つて居る所でございます。御承知の通り資本主義、非資本主義の思想の争ひと云ふものは日本社會の上下、左右を通じまして、唯今渦を巻いて居る。毎日の新聞を見ましても、ストライキとか、或は今日の新聞で見れば、横手警察署は襲はれ、裁判所も襲はれて刑務所からして主義者の主謀者を奪還しよう企てたと云ふやうにありますが、さう云つた事柄は、全協系の活動と云ふものは非常に盛んなのである。資本主義が依然天下を取つて居ることが出来るか、それとも此天下は社會主義、共產主義と云ふものに取られて仕舞ふのであるか、天下分け目の戦ひを今闘つて居る。之に對して吾々が空嘯いて居る譯にも参りませぬ、又對岸の火災視して居る譯には参りませぬ。各々其立場々々から十分研究を加へて、嚴肅な態度を以て之に處理しなければならぬ次第であります。私は勿論さう云ふ問題に付て全解決を與へる、又與へ得られる確信も無いのでありますが、其解決をするに必要な倫理的の考慮を申上げて御参考に供したいと思ふ次第でございます。

そこで昨年既に申上げた通り、本來財貨と云ふものは公有的のものである。公有的と云ふのは共產的と言つて宜しい。手ツ取り早く云へば、富と云ふものは天下の寶で、別言すれば公寶的のものである。誰彼と云ふ一人が私に有すべきものではない。三井、岩崎と云ふやうな人々が私に有すべきものではない。富は天下の寶である。公有的共產的のものであると云ふことは、希臘の大哲學者のプラトーンが詳しく既に論じてありますが、現代に

至りまする迄如何なる人でありましても、斯う云ふことを否定すると云ふことは理論上出来ない。日本では青砥藤網が滑川へ錢を落して松火の料が拾ひ上げた御錢の多寡よりも高くあるに拘らず拾ひ上げたと云ふのを彼が説明して居りますが、詰り富は天下の寶であるから、滑川へそれを落して仕舞ふと云ふことは天下の寶を失ふのである。松火の御錢と云ふものは藤網の懐中からは無くなつて私には差引損であつても失はれた錢も天下には流通して居る。天下の寶を失はぬ。斯う云ふ理窟でありましたが、併しそれは眞の經濟學の上から申しますと、間違つて居ると言はれますが、併し其理由、富は天下の寶である。是は理論的には殆ど大部分の學者が一致して居る所である。又一致すべきものである。然らば富は共產であり、私有と云ふものは許さないか否か。共產的であると云ふことが直ぐに私有財産の否定と云ふことになるか否かと云ふと、さう云ふことはない。そこで茲に公有的から公有まで單簡な一線を引いて見ると、其の距離と云ふものは非常に大なるものがある。問題はそれである。共有的であるから直ぐに共有にして仕舞ふ。さう單簡な理窟はない。倫理哲學、純正哲學の上からして富は公有的のものであるとして、扱實際に於て富を共有すると云ふことが宜いか悪いかと云ふことは、單簡に結論は下せない。斯う云ふことを昨年申上げた譯であります。

此問題にからんだことでありますが、私の考へます所では、富を共有にすると云ふことが假りに先づ人々の間に異論なしとして、今の資本主義の制度を急に共產主義の制度に變へたとして考へて、扱日本にどんなことが起るかと申しますと、共產主義や社會主義の人々は動ふともすれば、手もなく私有財産を無くして仕舞ひさへすれば、理想境に到達するかの如く考へて居るが、それは大なる誤りであると云ふことを注意したのであります。

どうしてさう云ふことが言はれるか、生活形式と云ふものは吾々の環境である。其環境と云ふものを直したらば直ぐに吾々が幸福なる状態に至り得るか、云ふとさう單簡には言はれない。



自分と云ふものゝ性質を能く研究をせず、日本と云ふ環境ばかり變へた所が、生活の形だけを變へて、各自の精神生活と云ふものを變へないで置いた時分には決して其人の幸福と云ふものは生じて來ない。昨年の復習になりませんが、昨年は斯う云ふことを申上げて置いたのであります。のらくら息子が親父の百萬の財産を貰つて見たらどうだ。今迄は親父が頑固で百萬の財産があつてものらくらな倅には少しも金を呉れない。小遣を十圓ばかり呉れた外は更に小遣を呉れない。ぎゆう／＼の目に遭はされて居つたのらくらが親父が死んだ御蔭で以て一晩に金持になつた。環境がすつかり變つた。昨日迄はたつた十圓ほか収入の無い身分が今日は百萬の資産家になつた。環境は變つた。是は果して其のらくらに取つて幸福と云ふものを持來すであらうかと、云ふとさうではない。却つてそれが悪くなる。勤勉であり、節儉であつた親父に取つては百萬の富と云ふものは寶であつたが、のらくらの生活に取りましては、墮落の淵に沈めて、却つて身の破滅を來たすと云ふ結果に落ちて仕舞ふ。従つて

親父に取つては寶であつたものが倅に取つては却つて仇である。と云ふのは倅と云ふものゝ素質を變へない、親父が死んで倅がすつかりのらくらと云ふ品行を改め、了見をすつかり切換へれば百萬の富は親父と同じやうに寶であるが、其精神と云ふものゝ切換へが出来ない限り百萬の富は却つて仇となる。照憲皇太后の御歌に

持つ人の、心によりて、たからとも

仇ともなるは、黄金なりけり

此通りである。持つ人の心に依り、と云ふのは各自の素質如何に依つて此環境の性質が變つて來るのであります。故に之を環境と云ふものと各自と云ふものを切離して論ずることは大間違ひである。農夫や労働者が如何なる心を持つて居らうとも、生活の形さへ社會主義にして仕舞へば宜い。共產主義にして仕舞へば宜いと考へるのは大なる誤りである。斯う云ふことを先づ注意したのであります。

そこでもう少し立入つて之を哲學的に、心理學的に更に倫理學的に考察して見ると、斯う云ふことになる。



先個人と云ふのは己れの内としまして、環境は己れの外と致します。是は又哲學的に考へますと、此内と云ふ

のは心でありまして、外と云ふのは物であります。ソコデそんなら中島が今言つたやうな考慮は要らぬ。總ては物質的に解決がつく。外の物質關係を直くすれば、最前の内心状態も直くなるといふは唯物主義である。今労働者や或は農民が多少道德的の缺陷があるとするも、それは詰り物質が不足して居るからである。是は尤もらしい議論であります。總ては物質が支配すると云ふことが即ち此人達の見る世界である。吾々の精神だと云つて居るものも結局物質が支配して居るのだ。斯う云ふ風に説くのが唯物論、所謂唯物史觀等と云ふマルクスの哲學の立場等がそれであります。さう云ふことも全く或程度迄云うて宜いやうであります。心理的に考へますと、段々物を押詰めて一番我々に近くある物質なるものは身體であるから物と心の關係は即ち、心と身體の關係になります。さう手近かに引付けて考へますれば、随分多くマルクスの説明がつく所があります。例へば物質の方で貧すれば精神が鈍する、貧乏でありますと智慧のあるべき人が智慧が出なくなる。是は全くの話である。昔は維新の際など御家老様、一萬石ばかり知行を貰ひまして、袴等を着けて馬上優かに鞭打つて御殿動めして居ると云ふやうな時にはどうも立派な旦那様で、さうして殿様の前で立派な智慧を出した人が王政維新で扶持離れがしまして、士族の商法で失敗して遂に紙屑拾ひになる、扱紙屑拾ひになつて見ると、昔立派であつた旦那様所でない。びいどん／＼食ふに困り、遂に其紙屑拾ひが振つ拂ひをすると云ふ風に墮ちない氣遣ひはない。窃盜をすれば、監獄へ道入らなければならぬ位のこととは分る筈であるが、そんなことは忘れて振つ拂ひをする。昔の御家老が刑務所に憂身を嘗して居る。そんな例は世間に幾らもある。さう云ふ點から考へれば、詰り物質が支配する。斯う云ふ風に言うて世の中のことを大體の説明がつく譯であります。

それを又心理學の方から考察しますと、亞米利加屈指の有名な大哲學者、心理學者でありましたウイリヤム、ゼームスは身體と精神の關係を考へて、可笑しいから笑ふ。是は本當に違ひない。可笑しい時には總ての顔面の筋肉表情が變化して自然と口が開く、即ち精神が原因となつて、身體が動いて来る。さうなると唯心論になる。併し之を逆に云ふことが出来る。ゼームスが言ふ。笑ふから可笑しい。腹の中では不平がある。彼奴癪にさはる、或は腹が痛い。だからさう云ふ感情を構はぬで置けば、自然に物頂面をするやうになる。嫁さんが姑に向つて居るやうな顔付、是は何時でも可笑しくないから、可笑しくない面、物頂面を始終やつて居る。併しさう云ふ時に當つて可笑しくはない。寧ろ癪にさはつて居る。だが無理にも笑ふ。芝居役者のやうな具合に顔の筋肉を自分の意思で作つて笑ふ。さうすると自然可笑しくなつて来る。今迄は物頂面をせねばならぬやうな精神状態が段々無くなつて仕舞つて可笑しくなる。此れは、笑ふから可笑しくなるのである。どうも羨のない、修養のない嫁、嫁ばかりではない。亭主もさうだが、世間普通の教育のない家庭等では癪にさはれば、直ぐに顔貌にも角を立てるが、どつこいと云ふ所で、此ゼームス主義で外の貌を拵へて舞ふ。さうすると、癪にさはつたことが自然に柔く、こつちが柔かになれば、向ふも柔かになる。そこで即ち和氣藹々、春風駘蕩(笑聲) スキートホームと云ふものが出来る。(笑聲)さう云ふ風の意思力を以て態々拵へない限りはスキートホームは出来ない。それだから自然に可笑しくなるやうに、意思力を用ひて顔の雜作も、言葉の使ひ方も、手の働き方も、總て吾々の四肢五體をさう云ふ風に拵へれば、自然に理想的な精神状態が出来る。それが即ち可笑しいから笑ふばかりではない。笑ふから可笑しいとゼームスは言つた譯で、是は大いに考ふべき眞理である。物が心を作る。身體は心を作る。斯う

云つたものなんです。此の點でマルクス主義は正しいのであります。

それは全く、金のあると無いとは違ふ。ポロを着て居るのと錦を着て居るのでは違ふ。牛肉を添へて食つて居るのと、麥飯ばかり食つて居るのとも違ふ。人間の思想感情と云ふものは大分物質に支配される。勿論もつと適切に精神に近い所の身體と云ふものは密接に精神を支配する。だから身體に一定の形を與へると、精神が自然に出來て來る、それが即ち家庭、幼稚園、並に小學校と云ふものに於きまして父母や教師が能く譯は分らぬけれども、併し幼い子供に或形と云ふものを習慣付ける、是が大切だと思ふ。乳を飲んで居る赤ん坊から始めて譯は分らぬでも、所謂形を襲けて行く。此襲けがありませぬと云ふと、後に大學に於てどんな學問を教へましても立派な人間が作れませぬ。立派な人間を作ると云ふことは、此乳を飲む間からの赤ん坊、其次には幼稚園、其次には小學校に於きまして紳士淑女が有つやうな精神の生れるやうな形を拵へる。是が教育に於きましては一番大切である。獨逸の有名な文豪のエアンパウリヒテルと云ふ人があります。カント以後の文豪ですが、其人が母親の襲けと云ふものは將來三つの大學を卒業させる以上重大であると云うて居る。それは其通りで、人物を作ると云ふ點から申しますれば、大學教授等は到底母親に及びませぬ。母親は幼ない中から善なる習慣か、惡なる習慣かどつちかを與へるが、善なる習慣を與へて、善なる人物を作ると云ふ點に於きましては大學教授以上であります。大學に行つていろ／＼な理窟を先生から聞きますれば、こつば理窟は覺えますけれども、人間は中々出來ませぬ。すれつからしになつて居りますから、先生が少し位のことを説論しても聞きませぬ。あゝ云へば斯う言ふ。斯う云へばあゝ言ふで中々俄鬼共が言ふことを聽かない。(笑聲)それはどんな石川五右衛門のやうな者で

ありまして、産み立てのほや／＼と云ふときに形を母親がつくる。さうしますと云ふと、どんな者でも言ふことを聽く、早い話が乳の呉れ方にある。乳の呉れ方をきちん／＼と産れた時には五度ほか呉れないと云ふやうに規則正しくやりますと、さうすると規則正しいことが好きになつて來る。不規則のこと、だらしなことは極く嫌ひと云ふ子供が産れて來る。それが泣きさへすれば、そら乳、そら乳でやりますと、何時でも赤ん坊は泣いては乳を求め、後になれば悲鳴をあげ、益々でかい聲を擧げて泣く。さうすれば母親が負けて來る。所謂壓制な、我儘な、だらしのない暴君と云ふものは母親が乳を與へて居る中に養成して仕舞ふ。それが恐しいです。豚だの犬だのでもさうださうです。西洋豚の訓練を経た奴は間食ひをさせやうと思つてどんな御馳走を持つて行つても間には食はない。所がどうです。日本の現代に於きましてだらしのない不規則と云ふものを喜ばない青年がどこにあります。大學は勿論のこと、大學生等は朝は朝寝、夜は夜つぱり、おやつでござれ、何んでござれ無茶苦茶に食つたり飲んだり、腹を壊したりするのが彼等の特權なるが如く考へて居る。従つて中學生もさうであり、小學校の生徒もさうである。活動だの、バーだのあゝ云ふ所で以て身を壊す、其本は誰がした。幼い中に父親と母親、尤も父も母親も不規則なだらしのない奴らだ。(笑聲)是は話が聊か脱線で、餘分なことを申し上げましたが、併し形を作ると云ふことは大切な事であると云ふ譯でありまして、さう云ふ時代に於きまして唯物主義と云ふものに大いに考へて見るべき點はある。併しそれで以て萬事解決がつくか。問題はそこにある。唯物論と云ふもののみが正しいのであつて、唯心論と云ふものには取るべき所はないか否か、是が哲學的の考察であります。所が日本や支那に於きまして、昔から佛教でありまして、或は儒教でありまして、吾々の教と云ふものは

これはカントにも弱點がありますが、是は攻撃が主であります。例へばカウツキーの著書を見ましても、或はブハ
ーリン等の説いて居るものを見ましても、罵ることが多くして、冷靜に哲學的に批判をすると云ふ態度は欲けて
居るやうに見えます。

哲學論は暫く置いて、之を倫理問題でも同じであります。此内外と云ふのは倫理的に議論を持つて来れば、是
は動機論結果論であります。善の善たる所以は動機によるか、但しは又結果かと云ふこととなる。動機と云ふの
は原因でありまして、結果とは其原因から生じて来るもので、是はどつちも大切である。原因があつての結果で
又結果あつての原因で、兩方相俟つて居ることありますが、併し其價值づけに於てどちらが大切なものと云
ふと、唯今迄はカント等は動機論であります。ミル、ベンサム、スペンサーと云ふ人は結果論であります。兩方
の大家が揃つて議論を今でもやつて居る。であります。通俗に之を申すと、例へば、此所に食ふにも困つて居
るやうな人がある。此食ふに困つて居る人の話を聞きましたならば、あゝ可哀想だ。煎餅の一枚も恵みませうと
云ふ心を有つ。それが即ち原因で動機です。惻隱の心と孟子が言つたのはそれです。さう云ふ心を價值付
けられることは勿論であります。さう云ふ心さへあれば、貧者の一燈で、假令恵まれる所が少なくあつてもさう
云ふ心が大切である。之に反してどんなに澤山の恵みを受けるにしても、心持が外にある時分には動機は有り難
くない場合もある。例へば一萬圓の寄附をしたと云ふ場合でも如何はしいものもある。自分の家ではシャボンを賣
る。齒磨を賣ることを目的として自分は妾、てかけを置いてのんだくれで、成金になつたと云ふだけで此奴が自
分のシャボン、齒磨を廣告をする爲めに一萬圓寄附した。新聞に出る。世間の人聞いてあの齒磨屋は寄附し

た。それは偉い。(笑聲)さう云ふ一萬圓の寄附と云ふものは大變良い事のやうに世間では一寸考へられるけれど
も、誠心と云ふものがない、寧ろ其誰某が一萬圓の寄附をしたと云ふことが新聞に出る。あゝあれは齒磨屋だ。
して見るとあの齒磨も宜からう。あれはシャボン屋だ。それではシャボン迄も宜からうと云ふので、一萬圓寄附を
して十萬圓も二十萬圓も儲ける。其儲かると云ふことをちやんと豫告して居て算盤で計算して一萬圓寄附した。
是は貧者の一燈ではありません。富者の萬燈であります。又た嫁が姑に仕へるなんと云ふのは、眞に親のやう
に懐しい感じがするから、お母さん煽ぎませうと云ふことで煽ぐのではない。嫁は厭なことだ、此鬼婆早く死ん
で仕舞へ、死んで仕舞へ、さう云つて煽ぐ、さう云ふ心の鬼婆風だつても風は冷たいのですから、それで冷たい
風は些とも有難くないとも云へない譯だが、其所へなると姑は此の心を善いと思はない。さう云ふのは動機論か
ら云つて来る譯である。御尤もだが、それを學問的に押詰めて、其れなら結果論は取るに足らぬかといふと又た
然うでもない。此所に假りに食ふに困つて居る者がある。親類近所から借りられるだけは借りて、在りたけの物
は曲げてもう米櫃に一粒も無い、斯の如きもの既に三日、五日、七日斷食してひよろ／＼して仕舞つて、眼が眩
んで今三日、五日もやられやうものなら全く死んで仕舞ふ。それで動機論者が前を通つて洵に氣の毒なもんだ。
あれは一體資本主義の制度の悪い爲めにあゝ云ふ貧乏になつた。憎いと云へば、資本主義、可哀想なもんだな。
今一週間の中に死んで仕舞ふ。併し私は生憎一文無なしである。可哀想だと思つただけで煎餅一枚呉れないで行
つて仕舞ふ。第二の精神論者も、第三論者もあゝ可哀想だ、誠心を出しては行つて仕舞ひ、出しては行つて仕舞
ふ。(笑聲)如何に可哀想がられて同情されても、死ぬのは厭である。そこへ来ると、例のシャボン屋とさうして

齒磨屋がやつて来て、是等の人々の懐中は麥酒樽のやうに金貨銀貨で太つて居る。見ると云ふと、瘠せさらばえて死にさうになつて居る奴が居る。此奴どうも意氣地なしで如何に資本主義の世の中なりとは云へ、是程に食へなくなるとは愈よよくくの無能の奴と考へながら、併し死なせるのも可哀想だと云ふので百圓をぼんと抛つて、是で御粥でもすゝれと言はれた一時に、百圓の金は俺は俺は要らぬ。『渴しても盗泉の水は飲まず』なんと云つて威張る人が幾人居るであらうか。(笑聲)矢張り百圓の金と云ふものは有難い。假令少々汚れて居ましても、汚れは拭き落して、唾が引つ掛けられてあつたならば、それを押拭つて之を使つて米を買つて御粥をすゝつて健康家になつて、扱命あつての物種である。して見ると云ふと、人を救ふと云ふことは動機論から見ても宜いことであるが、併し又全く結果論と云ふものを否定することは出来ない。結果がない動機なんと云ふものは動機の價值がない。又併し動機が悪くても結果ばかりを考へると云ふ、それは今の例等は極端であります、動機が悪くても結果さへあれば宜い、斯んなことは吾々の常識に問うて許さぬことである。そこで詰り佛教等で申して居ります通り、此二つは相即して考へなければならぬものである。詰り心と身體に就て申しますれば、身體を抜きにして心を論ずるのも、心を抜きにして身體を論ずるのも共に不可いと云ふのが先づ現今の心理學の大體の立場でありますと同じく、精神と云ふものは全く物質を離れて論ずることの出来るものだ。さう云ふのも極端であります、又精神を離れて物質を論ずると云ふことも極端過ぎる。倫理的に更に動機と云ふものは結果を離れて論ずると云ふことも誤りであるが、結果と云ふものも動機を考へずに動機と切離して結果を考へることも誤りである。兩方は相即すべきものであると云ふのが先づ大體の今日の學者の通論であると思つて宜いと思ひます。従つて元

の話に戻りまして、社會主義と云ふものは環境を變更しようとするのであります、此環境と云ふものも人々各自の修養と云ふものと切離して論ずると云ふ所に彼等の主義者の大なる缺點があると考へる譯であります。尙ほ其事に就てもう少し立入つて御話をしたいと思ひます。

以上申上げたやうな眞理が社會的に考へて見ても事實であつたと云ふのは、歴史的の考察であります。先づ歴史的に考へますと云ふと、どうであるか。其前に社會的の考察として小さい所で申上げますと、吾々の理想は現代世界を風靡して居る所のデモクラシーでありまして、コムニニズムにしましても、ソシヤリズムにしましても、結局先づデモクラシーの理想の實現であります。吾々の最も小さい社會過程と云ふもので云ふて見ても、デモクラチックになることが理想に違ひない。デモクラシーと云ふのは外でもありません、平等主義であり、す。『各々の人々が一と見られ、何人も一以上と見ない』總ての人は一人である。どんな人でも一人以上とは見ないと云ふのが先づデモクラシーの立前でありませう。即ち労働者水香百姓と云ふやうなものは無價値なものであるから、五人寄つて、十人寄つて始めて伊藤博文と云ふやうな一人に向ふと見るのは、是は貴族主義であり、して、壓制主義である。假令伊藤博文と云ふやうな偉い人であつても外の人の十人百人と犠牲にすべき資格はない。伊藤博文も一人であれば、水香百姓も一人である。總ての人をひと數へて何人をも一以上と數へてはならない。即ち之を平民主義とも申すが、此理想が吾々の家と云ふものに於きましても實現されるのが當然の譯である。即ち妻と云ふものも一であれば、夫も一である。夫は一以上であつて、妻はコンマ以下であると云ふことは壓制主義である。理想ではない。斯う云ふのがデモクラシーの主張で、今の妻君は大抵どこの家でも之に共鳴し

て居る。(笑聲)唯夫が甚だ不完全な夫に至る迄さう云ふことは認めませぬ。が實際社會に於ては、餘程碌でなしの親父でも婦風情が何んだと云ふやうな調子で、亭主横暴である。どこの家でもさうであります。大學を卒業した學士、博士と云ふやうな人でありましたが、動もすると女房をお竹、おうめさんと云ふやうな調子で教養ある紳士が立派な奥さんをコンマ以下であるかの如く、奴隸でもあるかの如くに低頭平身させなければ承知出来ない、さう云ふ人もある。中には當節のハイカラは貰つた當時から碌でない女房でも「あなた：」なんと云ふ人もあります。デモクラチックなんです。妻君に「あなた、斯うなさいますか：」「齒の浮くやうな句調である。(笑聲)それがデモクラシー、中には教養ある人でも壓制的に妻である以上はお竹、おうめ、自分が出る時分には玄關迄立派な奥様が出て「旦那様、行つていらつしやいませ」斯うやる。妻君が出る時分には旦那様は「うむ、さうか」(笑聲)それはデモクラチックではない。非デモクラチックである。斯う云ふ所に洵に微妙な理論が矢張り伏在して居るのであります。さう云ふことが果してどう改良さるべきであるか。急にこれでは内面を切離して形だけ妻を呼ぶ言葉或は妻を待遇する態度を變へる。今迄の精神的修養の變化をさせないで形を變へると云ふと、先程言つたやうな不都合が生じて来る。ウツカリ女房を「あなた：」なんと言はうものなら、妻は調子づいて仕舞つて、忽ちの間に亭主を尻にかつて仕舞ふ。今日は氣分が悪いからあなた早く起きて御飯をお焚きなさい。(笑聲)腹が痛くなくとも妻が飯を焚く以上は夫も亦飯を焚かさるべからず。そこで代りばんこにしよう。そんな生活形式も東京ではあるらしい。そこで以て「おい、君：」君と云ふのは男を呼ぶにも、女を呼ぶにも、兩方用ひられる。さう云ふハイカラな形式がある。だが妻の修養と云ふものがしつかり出来、自分の

修養がしつかり出来た時にあなたと云ふのは宜いが、修養と云ふものが出来ない女房を修養のある人かの如く待遇すると云ふと、是は弊害が生じて来る。夫の爲にもならなければ、妻の爲にもならない。一家の幸福と云ふものを形造るのが目的であるならば、修養のないやくざな女房なら時には拳骨を振廻はす。餘り亂暴なことを言つて居るならば、横すつぽーの一二三つ位の程度迄之を呉れた方が宜い。殴り付けて仕舞ふ。(笑聲)さうすると夫と云ふものは恐いものだ。中に生意氣な我儘なことを言つてはいけない。朝寝坊をしてはいけない。買喰ひをしてはいけない。さう云ふ風になつて来る。夫の言ふ通りにならない分らない女房ならば拳骨が一番早手廻し、それをハイカラにはデモクラチックなんと云ふことを言つて、そこに其家庭に改良を加へやうものならば、飛んでもないことだ。是は皆さんも其ことは知つて居るでありませうが、未婚の青年は能く心に留めて置いて置くべきである。(笑聲)此妻に對する言葉とか或は態度とかは甚だ六づかしい。「誰かろか、知らねど、柿の初ちぎり」さう云つた加賀の千代のやうな心構へがあれば、是はデモクラチックにする價值がある。十分さう云ふ夫を尊敬するやうな心持が満ちて居る妻ならば、夫も亦妻を尊敬すべきである。さう云ふ妻君まで奴隸扱ひにするに云ふことは、是は宜しくないことで、近所合壁に不都合がない限りは妻君に對してもあなたとか云ふやうに言つて宜い譯である。併ながらそれが近所合壁に悪影響を及ぼすと云ふやうな場合、殊に舅姑に悪感情を及ぼす場合には、それは口の外に出すべきではない。口の中ではあなたと言ひながら言葉に出してはいけない。言葉にあななんと云ふと、舅姑が直ぐに眼に角を立つて、御前がそんなにするから家の嫁が悪くなる、などの小言も出る。それだから加賀の千代を貰つた場合には、腹の中であなたと云つて、さうして言葉には出さない。但し是は

親と別れて遙か遠くに住んで水入らずの時になつたならば、遠慮なしにあなたと云つて宜い。(笑聲)舅姑の居る場合には口だけは古くて腹を新しく云ふのが是亦家庭圓滿の秘訣である。さう云ふ細かい所迄注意しないと、家庭の圓滿と云ふものは圖られないと云ふ譯で、小さな社會既に然り、大なる社會の事は其れ以上である。銘々の修養と云ふものと伴うて此社會の生活形式を改良しなければ弊害が百出する。蟹の甲羅に似せて穴は掘らなければならぬ道理である。

そこで斯うした要領を擲んで面白く説明して居ります文明史があります。佛蘭西のセーニ、ポーの文明の歴史(History of Civilizations) 英譯もあり、三巻があります。此本は國民文庫刊行會と云ふ所から翻譯も出來て居ります。此上巻を御覽になると、國家をどう云ふ風に形造るが宜いか、即ち國家の盛衰興亡と云ふものが歴々とそこに記録してあります。希臘には有名な國が二つありまして、アデンとスパルタ、スパルタは武斷主義の國であります。アデンと云ふ國は民衆政治、今のデモクラシーに近い。國民が總て會議をやつて政治の方針を決めます。さう云ふ制度であつた。あの國の文化燦然として、發達致しまして、蕞爾たる、地圖で見ますと能く分りませんが、歐羅巴の東南隅にある小さい半島國であります。當時の大帝國であつた波斯と戦ひまして、大勝しました。丁度日本が大なる支那に打勝ち、露西亞に打勝つて東洋の強國となつたと同じやうな具合に、希臘は當時の世界の大帝國であつた所の波斯を滅ぼしまして、強大の國家をつくりました。と云ふのは皆此國民が互ひに相談し合つて各々の人を一と數へて、何人をも一以上とすべからずと云ふやうに嚴密なる意味ではありませんが、總ての人民が相談をして事を決したと云ふ點に於きましては同じであります。即ち多數政治でありまして、其多

數政治と云ふものに依つて國家は富強文明になつた。併し天下の富を己れに集めまして、此富に依つて希臘人は奢侈になりました。非常に贅澤になり、従つて懦弱になり、利己的になりました。そこで希臘は崩壊するやうになりました。總ての者が贅澤になつて、我儘になつて我利々々者ばかりが出来て、さうして皆が相談して事をやると云ふ時に多數政治がどうなる。では納りが付きませぬ。そこで金力に任せ腕力で以て事を決しなければならぬと云ふ状態に變化して來た。皆が國家の理想をもちまして、衆議で決して進歩發展する時代は宜かつたが、併し總ての人が金を得て、金に毒せられた結果は、どうしても壓制政治と云ふものに依つて腕力で敲きつけて仕舞はぬ以上は解決がつかなくなりました。所謂專制政治と云ふものが生じて來た、だから多數政治と云ふものは段々腐敗墮落して纏りをつける時は武斷政治、其武斷政治に就てはそれをやるには多數の人を養つて、家の子郎黨と云ふものを金力で以て養つて之に俟たなければならぬと云ふことになつて來た。そこで金が欲しい。金が欲しい金の爲めには歴史的の敵であつた所の波斯にさへ身を賣つて、其の爲めに盡すに至つた者も出て來た。さうしてあれ程忠君愛國であつた希臘の國民が、歴史的の敵である波斯の傭兵となつて、而も波斯軍に率ゐられてそれで希臘を攻めて來たことまである。さうして斯の如きことを反覆して居る間に遂にアレキサンダー大王がテッサリーから参りまして、遂に武力で以て之を滅して希臘は崩壊して仕舞つた。前に民衆政治であつた希臘の末路と云ふものはさうであつた。又希臘に代つて世界的の國家を作つたものは御承知の通り羅馬であります。羅馬と云ふものも亦始めは民衆政治でありました。所謂レブリック、民衆政治で段々興つて來た。民衆の協同力で興つた。所が是も同じことで、羅馬が世界を取つて、天下の富は皆羅馬へ集つた。そこで羅馬の質實剛健極まりなき

丁度日本の古の武士のやうな羅馬の當時の子孫が黄金の力に依りまして世界的の享樂に耽りまして、其結果と云ふものは型の如く懦弱になり利己的になりました、さうして共に表面は兎に角、内實に於て我利々々亡者の戦ひが起つて、此戦ひの鬼をつけるのはどうすれば出来るかと云へば、詰り金力があつて、家の子郎黨を澤山養つて腕づくで以て天下を取ると云ふ力が要る、武斷主義の人が出来なければ駄目である。そこで羅馬のレバプリツクと云ふものは段々経緯があつたが、仕舞には君主の獨裁政治、例のネロ帝の如きものが出来て来て非常な壓制政治、道理がどうだの斯うだのでない。總て權力で解決をします。斯の如くにして羅馬の最後はシーザーであるとかポンペイであるとか云ふ人が權力を眼がけての戦ひをするやうになつたのでありますが、其の結果皆共倒れになつて仕舞つて羅馬は滅びた。それだから始めは人民が政治をして居る間はどん／＼伸びて行く。所が天下を取つて仕舞つたならば、今度は其人民の性質が我利々々亡者に變化して、始めの民衆政治の中は希臘でも羅馬でも皆忠君愛國、先達死んだ木村鷹太郎君は歴史に付て色々奇抜な研究を發表する學者でありましたが、あの人依ると、日本人の元は希臘人だと云ふ、希臘人と日本人は非常に能く似て居る。又羅馬とても其通りである。一番能く似て居ると云ふのは忠君愛國、あの希臘人と雖も、羅馬人と雖も其の忠魂義膽は秋霜烈日である。例のマラトンの戦ひに於きましてスパルタのリオクダスがやつた極く僅かな兵を以て、最後の一人迄踏止つて戦つて、さうして主従皆殺されても使命を果して、そこで喰ひ止めた。あゝ云ふことは忠君愛國の精神其ものゝ權化でなければ出来ない所で、一般の民衆も己れの身命と云ふものは勿論國家に抛ち『名譽を得て歸れ、然らずんば楯に乗つて歸れ』母親は子供達にさう云ふ教訓を與へた。其教訓が文字通りに徹底されたのが希臘、又羅馬とても

同じであつて、さう云ふ話の具體的の例を諸君が求められようとするならば、ブルタークの英雄傳、是はゲーテも好み、ナポレオンも好み、歐羅巴の總ての人がそれに依つて感奮興起する所の面白い本、是も翻譯が出来て居る。夏の夜等の讀み物として大變面白い非常に有益な説話にも富んで居る本です。さう云ふ所を見ると、忠君愛國と云ふものは日本ばかりの専有物でない。苟くも國家が盛んになる爲めには此精神がなければならぬもんだと云ふことが能く分るのであります。

それは餘談であります、必らずしも民衆政治が良いと云ふ譯でない。民衆政治と云ふのは即ちデモクラシーの精神の外部への現はれで、内の心が外の形となつたものであります。希臘の國民が忠君愛國で其精神の燃えて居る限りは民衆政治で其國家は進歩發展したのであります、此忠君愛國の精神我利に變化して仕舞つた以上は此民衆政治と云ふものは形許りあつても最早役に立ちません。そんなことを考へますと、洵に人間の運命と云ふものはあざなへる繩の如く、戦争に勝つたのが果して宜いのか、負けたのが悪いのか形許りから見では分りませぬ。希臘は勝つたが爲めに遂に腐敗墮落して滅びた。羅馬又然り、併しさうかと云つて戦争に出て態々負けるなんと云ふそんな馬鹿なことも出来る譯のものでない。併し勝つて兎の緒を緊めるとは能く言つたことで、勝つた時が洵にむづかしい時である。と云ふのは何かと云ふと、随分立派な人でありましたが、妾てかけを置き、酒を飲み、それで家庭油断が出来まして遊惰になりました、今迄は律義な人でありましたが、妾てかけを置き、酒を飲み、それで家庭と云ふものは崩壊して仕舞ふ。是は希臘羅馬ばかりではない。日本の現在にもある。若しさう云ふ徑路を取るならば、生中身上が出来たと云ふことは却つて禍である。寧ろ貧乏身上であつた方が宜い。斯うも云へる。それは

矢張り社會次第、勝つて兜の緒を緊めて身上が出来、境遇が宜くなれば、益々反省修養すると云ふならば、多々益々辯ずる次第である。之に反して金があつたら金に毒せられる人、さう云ふのが普通であるから、そこで希臘羅馬のやうになつて仕舞ふのであります。

そこでペルトランド、ラツセルと云ふ英吉利の有名な現代では先づばりくの哲學者があります。矢張り早やに色々な著述を出して世を益して居りますが、ラツセルが支那へ来て居りまして、支那の事情を能く知りました。が彼の言ふにはデモクラシーと云ふものは支那には行はれない。支那の政治に冷淡な利己的な國民性ではデモクラシーが行はれないといふのであります。勿論彼等の間にも共產主義や社會主義を説く人も出来たやうであります。それは口では何と言はうが、忽然。さう云ふ歐羅巴の制度を持つて來ても、結局武斷主義で以て始末を付けて仕舞はなければ仕様がなかつたこととなる。所謂馬賊の支配に任せられて仕舞ふが落ちである。

そこで人らしい人の數が多くなりますと、デモクラシーが實現される家庭と同じ譯である。人らしい人の數が少ないとデモクラシーは行はれない。人らしい人、何んでも立派な一個獨立の人である。一個獨立の人同志が相對する場合には是はデモクラシーより外に途がない。小さいことで云へば、家庭で以て夫と云ふものも堂々たる紳士、妻と云ふものも堂々たる淑女であれば、此堂々たる二人が寄つた家庭と云ふものは必然デモクラシーになるが、併し社會に於きまして堂々たる人でない我利々々亡者、教養もなければ、修養もなくして金を持たせさへすれば、飲んだり食つたり、甚だしいのになると賭博をやつたり、さう云ふ風な人間でありますならば、是はデモクラシーにしようものなら、仕舞の納りは例の銃劍でやるより仕様がなかつた。御覽なさい、日本では社會主

義と云ふと、官憲が直ぐに主義者、危険思想だと言ふ。社會主義が必らずしも危険なのではない。又た悪思想でも何んでもない。デモクラシーの思想であると云へば、當り前位だと云つて宜い位である。所がそれを日本では危険思想だ。危険思想だと云ふのは何故であるか。私は思想の爲めでなく、其れを振り廻す人の爲めだと思ひます。さう云ふ社會主義なるものを擔ぐ、そんな旗を掲げて居る者の中には随分得手勝手に向ふ見ずな無慮な危険な人物も居ます。掲げて居る旗印しが悪いのではなくて、旗持が悪い。危険思想と云ふよりか、危険人物と云つた方が適切であらう。斯うした人々はどんな旗を持たしても危険人物である。勿論總てさう云ふ譯ではありませぬ。英吉利で御覽なさい。英吉利は今社會主義が天下を取つて能く治つて居るではありませんか。三日ばかり前に新聞にマツク首相が伯林に乗込んで獨逸を救ふと云ふ劃時代的の國際慈善をやつた。五十年前にビーコンスフキールド、バルフホアー伯とソルスベリーが伯林に乗込んで帝國主義の争ひで劃時代的の波紋を捲き起したのであつた。ビーコンスフキールドがピスマークと折衝したが、其時は贊同志のやうに言はれた。所がマツク首相は獨逸の到る所で歓迎されて居ると云ふ譯で、今度はノーベル勳章をマツク首相がフーヴァーと共に貰ふと云ふことが今日の外電にあります。マツク首相は社會主義者でありますけれども、危険人物ではない。それ所ではない非常な名譽を有つて居るぢやありませんか。して彼の腹の底を割つて御覽なさい。あれは本當の猛烈な社會主義者から云つて見ますと、あれは本當の社會主義者でない。妥協的の社會主義であると言ふ。それは其通り、社會主義者と云ふものは私有財産制度を廢すると云ふことを本領にして居る。資本主義の制度を撤廢して仕舞はうと考へて居る。斯う云ふ點では彼等は謀反、禍心を包蔵して居ると云うて宜い。今の天下は資本主義の天

下だから其れを引つくり返して私有財産制度を撤廢して仕舞ひたいとはマツク首相の考へ方である。但しそれをするに非合法的でなく合法的である。勝つも負けるも國會議場に於て華々しく十分の討議、論戰を経て多數を得て、國民多數の賛成を得て此私有財産制度を引つくり返して公有制度にしよう。斯う云ふのが彼等の理想である。さう云ふ考へは捨て、居るのではない。さればと云つて是が何にも社會主義者の立場でないことはない。此れなれば危険思想でも何んでもありはしない。どう云ふ譯かと云ふと、英吉利の國民の總てが個人と云ふものが修養が出来て居りました、ベテンや誤魔化して掛らないばかりか、手つ取り早く云ふならば、個々の人が忠君愛國の精神と云ふものがある。英吉利の國家をどう云ふ風にして仕舞つても構はぬと云ふやうなそんな亂暴な心を持つて居る者は無い。民衆一般が、我利々々亡者でない限り、英吉利は希臘羅馬と反對になる譯であります。英吉利は御承知の通り、其の領土内には太陽が會て其影を沒しないと云ふ位世界各地に植民地を持ちまして、斯の大戦前迄は世界第一の富強國でありましたけれども、崩壊しない。崩壊しないと云ふのは多數の人々に、勝つて兜の緒を締めると云ふ修養が出来て居る。さう云ふ國民に於きましては社會主義更に危険でありませぬ。社會主義をして危険ならしめた譯と云ふものは國民多數の教養が乏しいからである。獨逸は英吉利程の修養が出来て居りませぬ。今は洵に戦後の財政状態が窮乏の極に達して亞米利加、英吉利、佛蘭西の恩恵に與らなければならぬと云ふ程の破目に陥つて居ります。従つて國內と云ふものは實に混亂の状態であります。あの混亂の状態に於ても未だ、相當の秩序を保つてどうやら未だ脈があると云ふのは、彼のヒンデンブルグを中心と致しまして、今のブリュニングと云ふ首相は役場の書記の地位から身を起して律義精勤の一點張り、固より大なる雄辯家

である譯でもなく、又偉い天才がある譯でもありませんが、二、二が四と云ふ行き方で以て一步々々と社會上の段階を経上つた。到底華々しい所謂政治上の政黨の首領と云ふのには一見不向きに見える位地味な甚だ氣焰の舉らないに拘らずヒンデンブルグ大統領の信任を得て。今日の獨逸を救ふのはブリュニングの外はないと迄出世した。其一片秋々として忠愛の精神に燃えて、其忠愛の爲めに國事を憂へまして、未だに妻帯しない。寝ても醒めても獨逸を救ふと云ふことに一身を捧げて居る人である。此誠心と云ふものは大統領に買はれ、又國民一般からも認められました、極めて六づかしい此の時局に際して唯今首相で納つて居る。若槻さん程の天才もなく、濱口さんのやうな英雄的の性格もなく、謂はゞ屬僚的な人であるが、併し其誠心と云ふものは非常に徹底して居るらしい。又最近此社會主義者の投票を蹴散らして非常に大希望を得たのは國粹黨でありまして、是はヒットラーと云ふ非常な美男子、是が一度立たうものなら婦人が雲の如くに響應して、さうして彼等がボートを投ずる。それが爲めに最近えらい勢力を得て來た。美男のヒットラーとして婦人の崇拜の的だから定めし女狂ひでもやつて、日本の政治家がやるやうな、或は社會主義者、共產主義者等が女と酒に迷つと居るやうに見えますが、是亦女と云ふものは大の嫌ひでありまして、今日迄女に手を附けたことはない。獨身だといふ。道樂は何かと云ふと國家のことである。獨逸を救はなければならぬと云ふ其誠心、此所に非常な雄辯がある。そこで社會主義者と云ふものゝ投票はどんと減つて、國粹黨が第二の大政黨になつた。其誠心と云ふもの、さうして又國家國民を思ふと云ふ哀情の猛烈さ加減、ブリュニングと云ひ、ヒットラーと云ひ著しいものがある。斯う云ふ誠心のある人が力を得ると云ふことは、その共鳴者が比較的の多いと云ふことを示すのであります。是が私は獨逸と云ふも

のが最後の崩壊に至らない、未だ脈を止めて居ると云ふことに取つて非常に大なる契機であると思ふのであります。

要するに、問題の要點は國內には分つた人が一であつて、分らない人が九であると云ふ時分には是は獨裁政治（アブソリュチズム）でやるより仕様がなない。家庭であれば拳骨を亭主が女房に呉れると云ふ遣り方でなければ仕様がなない。所が今度は分つた人が二或は分らない人が八或は七位でも宜い。斯う云ふ時分には所謂獨裁政治が段々緩和されまして、寡頭政治、半獨裁政治です。それから分つた人が四、五から始めて七、八、是が普通の半デモ、それから分つた人が九で分らない人が一に減つて仕舞ふと云ふと、現實の世界に於てはデモクラシーの世の中になる。英吉利等は賞めて言へば先づ此處等でありまして、日本は半デモ位であると私は思ふ。そこで結論に急ぎますが、人民の修養が出来て居らない時に唯其社會主義、共產主義と云ふやうな思想を呼んで来て、知るだけは知りまして、修養は出来て居ない。時には、其社會主義、共產主義に走る動機は違ふ。マツク首相等になりますれば、社會主義者とは申しながら忠君愛國或は人類愛と云ふものが社會主義になつて、富は天下の寶であると云ふ時分には矢張り自分と云ふものも天下の爲めに生きる。『天下の憂へに先立つて憂へて、天下の樂みに後れて樂しむ』と云ふ心構へがある社會主義者ならば、些とも危険はない。然るに自分と云ふものが出来て居らないで、それで急に社會主義と云ふものだけ、此環境の形だけを變へようと主張しますると、所謂危険性の社會主義に走る。其動機は何か。一概には言へませんが、現在社會主義に走る人々の動機としては第一に貧乏といふ分子が少くないらしい。食ふに困る、露西亞の人の言ふことを聞けば金を呉れる、ソコデ金を貰つて共產主義の提

燈持ちをする人が随分あるやうです。第二には虚榮でありまして、今時頭の良い人が社會主義、共產主義を理解して居ない奴があるものか。社會主義のことを知らないと言ふ書生は時代後れだなんと言はれると或は社會主義に動き、虚榮雷同の動機が基になつた社會主義にかぶれる、學生等の多くはそれとも言はれます。第三の場合になりますと、本を作る者が社會主義、共產主義の物は賣れる。雑誌を發行しても賣れると云ふ所から一つ金儲けにやつて見よう。十萬二十萬の金を持つて居る奴が金儲けの爲めに社會主義は結構といふもあらう。之れは利得の爲めの社會主義者であります。尤も近頃は忠君愛國迄も喰ひ物にするから、斯様な世智辛い世の中になると、何んでも喰ひ物にされるのであります。第四に社會主義者になつて一週警察の御厄介になり、三十日ばかり牢屋へ入れられてつくづく厭になつた。社會主義を抜け出さう思ふけれども、さうなると一週捕へた奴は中々許さない。それならば貴様を俺は殺して仕舞ふ。あゝ云ふ奴等などは、刀等を持つて居つて俺達から離れるならば、やつつけて仕舞ふぞ。と威すといふ。殺されては堪りませぬから、厭々喰ひ付いて行く。斯う云ふ社會主義者も青年等の中には随分あるやうであります。皆是は宜くない。併しながら裕福な家庭に育つて素性の良い眞面目な學生でも此社會主義に共鳴する。それは何かと云ふと、正義の感情からであります。譯も分らない成金なんて威張りくさつて、さうして貧乏人を虐めて居る。正直に眞面目に働いて居る労働者が困つて居る。それを惡地主だの、悪資本家が虐めて居ると云ふ状態を見て、是で公憤を發しない青年と云ふものは、實は自ら腐敗墮落して居るものであります。正義の感情は公憤の情である。斯うした青年は、自分は一錢一厘得をすると云ふ積りはなくとも、人の爲め、労働者の爲めに或は下級農民の爲めに泣ける人なんです。是は實に美はしい立派な精神と云へま

せう。段々に研究して見れば、研究致すだけの資本主義と云ふものゝ悪いことが分る。従つて社會主義、共產主義に走る人は、是は正義の觀念から走ることもある。加ふるにロマンチックの感情等が玆へ手傳ひまして、さうして社會主義、共產主義へ走つたものは父母の涙でも、勿論生中な説教などで何うも出来る筈がありません。彼等には多少の根柢がある。否な普通人以上の認識がある。が併し正義の感情と云ふものは未だ正義ではない。正義の感情とも云ふものは未だ正義其ものではない。正義の感情が眞に正義となる爲めには、先づ感情の外に深重な智慧が入用であります。公憤を發しさへすればそれで天下のことが總て救はれると云ふものではない。云うて見れば、親掛りの脛嚙りが公憤の情を起した所が多くはゴマメの齒ぎしりであります。それでわい／＼騒いだ所で己れの救はむとする天下が實際救はれるどころか或は反對にならぬとも限らない。直に天下を救はむとするものは、先づ資本主義と云ふやうなものに付て、マルクスの資本論を始めとして總ての文献を研究し、經濟問題政治問題を慎重に三年も五年も十年も研究する必要がある。唯其研究だけでは足りない。更にもつと／＼吾一身をブリューニングの如く、例へばヒットラーの如く忠愛の精神に燃え立たせて、吾一身を人類の爲めに犠牲に供しても悔ひないと云ふ程の斷然たる意志力を持たねばならぬ。斯様にして始めて此正義の感情と云ふものゝ上に正義が確實に得られる。ヘーゲルの所謂コンクリート、アイデア、具體的觀念は單なる感情ではない。正義の具體的の觀念と云ふものが左様にして得られる。此手順を経ず此唯公憤の情に任せて共產主義、社會主義と云ふものを振廻はし、さうして其筋の御厄介になると云ふことは、是は心得違ひと云はなければならぬのでございませう。そこで資本主義の天下を覆へして社會主義、共產主義にすると云ふのは、是は革命であります。其革命は英語で

Revolution と云ひますが、革命と云ふものは危険であります。レポリューションのRを取ると Evolution となりますが、レポリューションでなしにエポリューション、それを進化、發展と云ひますが、エポリューション、即ち進歩と云ふものは絶対にしなければならぬものである。又始終各自の精神修養と云ふものを許さないやうな社會は是は危険である。資本家が資本を握つて各々の人が修養したいと云つても修養の時間もなければ、設備もないと云ふやうな金持ならば、其社會は不健全でありまして、さう云ふ社會は革命を誘起致しまして、是も不合理的至極のものである。そこで吾々は此新更會のやうな會合を盛んに致しまして、労働家資本家共に相即しよう。佛教の言葉で申しますると云ふと、精神と社會形式と相即し、修養と環境と相即して進歩するやうに致さなければならぬものと考へる譯であります。融通念佛宗の良忍上人は言つた。「一切人は一人であり、一人は一切人である」と是は矢張りデモクラシーの理想と見てよろしい。デモクラシーの本質は「各自は全體のため、又た全體は各自のため」にあると言はれるのと似て居ります。事々無碍は動もすれば現實的に説かれるが實は然うあるのが理想と見なければならぬ。此一人は總ての人々の爲めなると云ふことは、御同様に此社會生活、社會に産れて來た所以は何が爲めかと云ふと、それは一人、人と云ふ理想を實現する爲である。又其人と云ふ理想があると云ふことは、即ち一切の人が存在する爲めである。ニイチエの哲學に依つて言ひますと、斯う云ふ大勢の人間の産れて來た所以は、有象無象でたゞ／＼大勢産れて來た譯は之に目的はないんだ。唯一人のユーベルメンシユ、超人、即ち人類を超越した偉人をつくらむが爲めである。一切人はたゞ／＼産れて居るが、其の使命を言へば超人一人の爲めに産れたものだ。其超人一人を作り、此頂上に達すると云ふことが一切人が現實に存在する所

以である。之れは極端な言ひ現はしであるが、兎に角吾々何の爲めに産れて居るか、斯んな五尺の身體、五十年の壽命なるものが飲んだり、食つたり、たわけたりする爲めに産れて居る譯ではない。是は人たるの道を実現せむが爲めの手段である。が併し又た人々は單に道具であり手段ばかりあるのか、必らずしも然うではない。我れが全體に奉仕する丈け其れだけ全體は又た我が用を足す、別言すれば、全體は各自の爲めとなるのである。我れが理想に奉仕し理想が我れを生かすのである。理想は佛と謂ひ、神と謂ひ或は其他の言葉を以ても言ふことが出來ますが、總ての存在と云ふものは凡て此の一つの理想の爲めであると確信する次第でございます。どうかさう云ふ方向に眞我の生き方をするやう、御同様共々歩を進めたいと念願をして居る次第であります。御清聴を汚しました。(拍手)

昭和七年二月二十日 印刷
昭和七年二月二十五日 發行

社會生活の形態と精神
定價 十 錢

著 者 中 島 德 藏

編纂兼發行者 神 崎 照 惠

千葉縣成田町一番地

印 刷 者 吉 本 伊 勢 雄

東京市芝區愛宕町三ノ二二

發 兌 千葉縣成田町一番地 新更會刊行部

賣 捌 東京市本郷赤門前 佛敎書林 山 喜 房

